

残りの人生これに決めたい！

ニッポンを元気にする生き方

「自分にいったい何ができる？」そんな自問自答の果てに、自らの情熱と使命感を大切に、仕事に打ち込む人生を選んだ起業家たちがいる。彼らの生き方は、彼ら自身のみならず、いつか周囲を、そして東日本大震災後の日本を元気にするに違いない。

取材文・筆 紹介 撮影 阪巻正高 片桐 主 太田康幸 子 天田幸也



求ム！ 日本を変える脱藩者たち



香港・中国・東南アジアの
日系企業に人材紹介

松本博明さん(36歳)
キャリアインテグレーション(株)
／中国・香港・東南アジア

大学卒業後、パソナに就職。2003年に香港の人材コンサルティング会社に転職。2006年、分社化する形で独立。人材情報サイト「華南ワークス」を設立するなど、アジア圏にある日系企業に向けて、日本の若者および同世代を紹介している。
<http://kananworks.com/>

Q 3.11後をどう生きる？

日本人以上に香港の人が日本を心配しています。給料1カ月分を返上したスタッフもいました。彼らの思いにこたえるためにも本気で仕事をする。それだけで。

ニュースを見ると日本の閉塞感は相変わらずみたい。もう、ほっとおけないんです。何だか日本が大好きになってしまった。

語学力ゼロのまま日本を飛び出した僕が現地の会社に拾われて、分社化という形で独立までさせてもらった。その経験がこれから海外で働こうとしている日本人のために使うつもりです。今、僕が運営する「華南ワークス」では、中国で働きたい若者を現地の日系企業に紹介しています。いや、若者だけじゃありません。定年を迎えた団塊世代の技術者も増えているんです。定年後は家でゴロゴロ、奥さんに煙たがられながらせつなくの経験を腐らせていた人たちが、生きがい求めて中国にやってくる。60歳を越えて海外に渡るなんて、カッコいいですよ。彼らが現地の日系企業のために一肌脱いで、若手の育成に努めてくれれば、企業の業績もあがるはず。

かつての僕がそうだったように、日本にいる人たちの多くが日本に無関心です。そんな彼らも、海の外から眺めてみれば日本が大好きになる。日本のために恩返ししたくなる。そうやって僕みたいな人間が一人でも増えれば、僕はハッピー。日本にとってもきっとハッピー。そうでしょう？

8年前からここ香港で働いています。就職した先は社長一人でやってる小さな人材コンサルティング会社。100万ドルの夜景とも、乱立する超高層ビルとも縁がありませんでした。蒸し暑い倉庫街で、顧客開拓のために毎日飛び込み営業です。ちょうどSARSが流行していた頃でしたから、マスク着用でね。なんでもこんな時に？って顔をされましたよ。周りの日本人はみんな帰国していました。でも僕はがむしやら、怖いものなんてなかった。

僕は日本を、脱藩したつもりなんです。窮屈な日本なんか大嫌い。さよなら日本、なんてね。今は180度違います。だって海の外から見る日本は文化も伝統も素晴らしいんですから。それなのに、